

貸借対照表

(2011年3月31日現在)

(単位＝円)

| 借 方 | | 貸 方 | |
|-------------|-------------------|-------------|-------------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 流動資産 | 18,081,657 | 流動負債 | 1,008,500 |
| 預け金 | 0 | 未払金 | 934,500 |
| 現金 | 0 | 前受会費 | 74,000 |
| 普通預金 | 10,555,771 | 前受金 | 0 |
| 定期預金 | 5,012,806 | 仮受金 | 0 |
| 未収入金 | 2,513,080 | | |
| 前払費用 | 0 | 正味財産 | 31,373,157 |
| 固定資産 | 14,300,000 | 学会基本金 | 14,300,000 |
| 定期預金 | 14,300,000 | 別途積立金 | 14,388,909 |
| 貸付信託 | 0 | 名簿準備金 | 0 |
| | | 次期繰越金 | 2,684,248 |
| 合 計 | 32,381,657 | 合 計 | 32,381,657 |

*前期繰越金1,785,517円、当期繰越金60,513円

財 産 目 録

(2011年3月31日現在)

資産の部

(単位＝円)

| 科 目 | 摘 要 | 金 額 |
|-------------|-----------------------|-------------------|
| 流動資産 | | |
| 預け金 | | 0 |
| 現金 | | 0 |
| 普通預金 | (仮)宇野木基金3,374,969円を含む | 10,555,771 |
| 未収入金 | | 2,513,080 |
| 定期預金 | (仮)宇野木基金定期 | 5,012,806 |
| 前払費用 | | 0 |
| 固定資産 | | |
| 定期預金 | 学会基本金 | 14,300,000 |
| 貸付信託 | | 0 |
| 合 計 | | 32,381,657 |

負債の部

(単位＝円)

| 科 目 | 摘 要 | 金 額 |
|-------------|-----|------------------|
| 流動負債 | | |
| 未払金 | | 934,500 |
| 前受会費 | | 74,000 |
| 前受金 | | 0 |
| 借入金 | | 0 |
| 合 計 | | 1,008,500 |

基本財産

| 会計区分 | 前年度繰越金 | 収入 | 支出 | 収支差引次年度繰越金 |
|-------|------------|-----------|-----------|------------|
| 学会基本金 | 13,300,000 | 1,000,000 | 0 | 14,300,000 |
| 別途積立金 | 14,551,538 | 1,002,806 | 1,166,569 | 14,387,775 |
| 名簿積立金 | 600,000 | | 600,000 | 0 |

*別途積立金は(仮)宇野木基金8,387,775円と電子ジャーナル化準備金6,000,000円を含む

日本海洋学会 2011年度 予算案

1. 一般会計

収入の部

単位:円

| 科目 | 2010年度予算額 (A) | 2011年度予算額 (B) | 差引増減額 (B)-(A) | 備考 |
|------------------|-------------------|-------------------|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 会費収入 | 20,468,550 | 19,137,200 | -1,331,350 | |
| 通常会員会費 | 15,998,950 | 14,790,600 | -1,208,350 | 年会費 11,000 会員 1,494 名 納入率 90% |
| 通常会員会費(シニア) | 456,000 | 482,400 | 26,400 | 年会費 8,000 会員 67 名 納入率 90% |
| 学生会員会費 | 1,128,600 | 988,200 | -140,400 | 年会費 6,000 会員 183 名 納入率 90% |
| 賛助会員会費 | 920,000 | 920,000 | 0 | 年会費 40,000 会員 23 名 納入率 100% |
| 団体会員会費 | 1,776,000 | 1,776,000 | 0 | 年会費 24,000 会員 74 名 納入率 100% |
| 特別会員会費 | 39,000 | 30,000 | -9,000 | 年会費 3,000 会員 10 名 納入率 100% |
| 終身会員会費 | 150,000 | 150,000 | 0 | 会費 50,000 会員 3 名 希望者のみ |
| 2. 事業収入 | 11,308,500 | 1,243,000 | -10,065,500 | |
| 広告収入 | 0 | 240,000 | 240,000 | NL4回、2社 |
| 会誌売上収入 | 1,170,000 | 968,000 | -202,000 | JO 20,000 × 14 = 280,000 海の研究 9,000 × 17 = 153,000 セット 25,000 × 21 = 525,000 バックナンバー = 10,000 名簿 5,000 × 0 = 0 要旨集 3,500 × 10 = 35,000 単価(@1p) 5,000 900 p 回収率 90% |
| 刊行物売上収入 | 38,500 | 35,000 | -3,500 | |
| J0ページチャージ | 4,500,000 | 0 | -4,500,000 | |
| J0カラーページ代 | 1,800,000 | 0 | -1,800,000 | |
| J0別刷 | 1,500,000 | 0 | -1,500,000 | |
| J0海外販売 | 2,300,000 | 0 | -2,300,000 | |
| 3. 積立金 | 1,765,000 | 3,786,000 | 2,021,000 | |
| 名簿準備金 | 600,000 | 0 | -600,000 | |
| 環境科学研究助成 | 1,165,000 | 786,000 | -379,000 | 積立金より(助成金2件60万、環境科学賞副賞10万、メダル製作費含む) |
| 電子ジャーナル化準備等 | 0 | 3,000,000 | 3,000,000 | 積立金より |
| 4. 雑収入 | 390,000 | 390,000 | 0 | |
| 受入利息 | 40,000 | 40,000 | 0 | 学会基本金利息 |
| その他 | 350,000 | 350,000 | 0 | 許諾抄録利用料 |
| 5. 寄付金 | 900,000 | 800,000 | -100,000 | |
| 寄付金 | 900,000 | 800,000 | -100,000 | 海洋未来技術研究会 400,000 日本海洋科学振興財団 200,000 海ロマン21 200,000 |
| 小計 | 34,832,050 | 25,356,200 | -9,475,850 | |
| 6. 前年度繰越金 | 4,623,735 | 2,684,248 | -1,939,487 | |
| 合計 | 39,455,785 | 28,040,448 | -11,415,337 | |

支出の部

| 科目 | 2010年度予算額 (A) | 2011年度予算額 (B) | 差引増減額 (B)-(A) | 備考 |
|---------------|-------------------|-------------------|--------------------|------------------------|
| 1. 管理費 | 10,500,000 | 10,180,000 | -320,000 | |
| 業務管理費 | 7,000,000 | 7,120,000 | 120,000 | |
| 賃金 | 100,000 | 100,000 | 0 | 臨時雇用 |
| 会議費 | 360,000 | 360,000 | 0 | 評議員会、賞委員会他 |
| 旅費交通費 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 諸会合旅費 |
| 通信運搬費 | 1,000,000 | 700,000 | -300,000 | 通常郵便料、HP維持費含む |
| 消耗品費 | 440,000 | 300,000 | -140,000 | コピー、封筒他 |
| 雑費 | 600,000 | 600,000 | 0 | 入金手数料 |
| 2. 事業費 | 25,397,000 | 16,841,500 | -8,555,500 | |
| 大会開催費 | 800,000 | 800,000 | 0 | 春・秋開催 |
| 大会プログラム等 | 0 | 0 | 0 | プログラム・参加申込用紙 |
| 海洋環境問題研究会 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| 教育問題研究会 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| J0発行経費 | 15,000,000 | 6,107,000 | -8,893,000 | |
| 海の研究発行経費 | 3,540,000 | 2,479,500 | -1,060,500 | |
| J0ニュースレター発行経費 | 0 | 2,300,000 | 2,300,000 | 4回分 |
| 会誌送料 | 1,450,000 | 1,000,000 | -450,000 | 団体・賛助等年6回、その他会員NL発送年4回 |
| 会員名簿発行費 | 1,360,000 | 240,000 | -1,120,000 | 4回分(NL発送時に同封) |
| 広告印刷費 | 0 | 40,000 | 40,000 | 4回分 |
| 送金手数料費 | 55,000 | 55,000 | 0 | |
| 学会賞金 | 900,000 | 900,000 | 0 | |
| メダル製作費 | 805,000 | 10,000 | -795,000 | 受賞者名刻印 |
| 渡航費 | 477,000 | 400,000 | -77,000 | 海洋未来技術研究会の援助による事業 |
| 環境科学研究助成金 | 600,000 | 600,000 | 0 | 2件 |
| 70周年記念誌発行経費 | 0 | 1,500,000 | 1,500,000 | |
| その他 | 10,000 | 10,000 | 0 | 地球惑星科学連合会員費 |
| 3. 積立金 | 2,000,000 | 300,000 | -1,700,000 | |
| 基本金組入 | 1,000,000 | 0 | -1,000,000 | |
| 電子ジャーナル化準備等 | 1,000,000 | 0 | -1,000,000 | |
| 名簿積立金 | 0 | 300,000 | 300,000 | |
| 小計 | 37,897,000 | 27,321,500 | -10,575,500 | |
| 4. 予備費 | 1,558,785 | 718,948 | -839,837 | |
| 合計 | 39,455,785 | 28,040,448 | -11,415,337 | |

2010年度事業報告

1. 「Journal of Oceanography」第 66 巻第 2 号～第 67 巻第 1 号, および「海の研究」第 19 巻第 3 号～第 20 巻第 2 号を刊行した。
2. 2010 年度春季大会(東京海洋大学会員の担当で, 2010 年 3 月 26 日～30 日)を, 東京海洋大学品川キャンパスで開催した。
3. 2010 年度秋季大会(道東地区会員の担当で, 2010 年 9 月 6 日～10 日)を東京農業大学オホーツクキャンパスで開催した。
4. 通常総会 1 回, 評議員会 2 回, 幹事会 7 回を開催した。
5. 会員名簿を発行し、2011・2012 年度役員改選を行った。
6. 学会賞・岡田賞・宇田賞受賞候補者選考委員会委員、論文賞受賞候補者選考委員会委員、環境科学賞選考委員会委員の半数改選を行った。
7. 2010 年度日本海洋学会賞(1 件)・岡田賞(2 件)・宇田賞(2 件)・日高論文賞(2 件)・奨励論文賞(1 件)および環境科学賞(1 件)を授与した。
8. 2011 年度日本海洋学会賞(1 件)・岡田賞(2 件)・宇田賞(1 件)・日高論文賞(2 件)・奨励論文賞(2 件)および環境科学賞(1 件)受賞候補者の選考を行った。
9. 日本海洋学会青い海助成事業として、海洋環境問題にかかわる事業(2 件)への助成を行った。
10. 海洋未来技術研究会からの援助を受けて、若手研究者の海外渡航費の援助(3 件)を行った。
11. シンポジウムの開催・協賛等(2010.4～2011.3)
 - 1) 2010 年度日本海洋学会春季大会シンポジウムの開催・共催

日程:2010 年 3 月 26 日(金)～3 月 30 日(火)

 - A 「モード水研究の新たな展開-海流・気候への影響を探る-
 - B 「東アジア海洋大気環境変化の監視と予測」
 - C 「海洋酸性化による環境影響」
 - D 「太平洋における物質循環のキープロセス」
 - E 「原生生物の多様性と生態的機能」
 - F 「海洋における長期変動の研究とその研究に必要な計測標準および分析用標準の開発管理その 4」
 - G 「小型浮魚類の資源動向の実態と加入予測の現状～マアジ・マイワシ・カタクチイワシの

例～」

H 「沿岸海洋シンポジウム “「里海」の学術的基礎”」

I 「Argo の進むべき方向性-Argo による研究成果と今後の展望-」

J 「ブレーク・スルー研究をめざして」

2) PICES-ICES 国際シンポジウム“Climate Change Effects on Fish and Fisheries”共催

日 程:2010 年 4 月 25 日(日)～29 日(木)

主 催:水産総合研究センター東北区水産研究所

3) 陸域と海洋の相互作用-海から陸・陸から海へ 協賛

日 程:2010 年 5 月 23 日(日)～28 日(金)の一日

主 催:京都大学防災研究所

4) 第 13 回マリンバイオテクノロジー学会大会協賛

日 程:2010 年 5 月 29 日(土)～30 日(日)

主 催:マリンバイオテクノロジー学会

5) 第 38 回可視化情報シンポジウム協賛

日 程:2010 年 7 月 20 日(火)～21 日(火)

主 催:社団法人可視化情報学会

6) 「研究船で海を学ぼう」の共催

日 程:2010 年 8 月 2 日(月)～8 日(日)

主 催:(財)日本科学協会

7) 平成 22 年度環境管理研究部門研究成果発表会後援

日 程:2010 年 8 月 31 日(火)

主 催:独立行政法人産業技術総合研究所

8) 日本流体力学会 年会 2010 協賛

日 程:2010 年 9 月 9 日(木)～11 日(土)

主 催:社団法人日本流体力学会

9) 2010 年度日本海洋学会秋季大会シンポジウム開催・共催

日 程:2010 年 9 月 6 日(月)～9 日(木)

A 「北海道オホーツク海沿岸域と道東汽水湖群の海洋構造と生物生産過程」

B 「メタンハイドレート開発における海洋環境への影響評価について」

C 「ブレーク・スルー研究をめざして」

D 「オホーツク海を起源とする熱塩・物質循環システムとその変動」

10) 可視化情報学会全国講演会(鹿児島 2010)協賛

日 程:2010 年 10 月 7 日(木)～8 日(金)

主 催:社団法人可視化情報学会

11) Techno-Ocean2010 協賛

日 程:2010 年 10 月 14 日(火)～16 日(木)

主 催:社団法人可視化情報学会

12) 第 51 回高圧討論会協賛

日 程:2010 年 10 月 20 日(水)～22 日(金)

主 催:日本高圧力学会

- 13) 堀場国際コンファレンス「西部太平洋域における海洋科学研究の新しい展開」-政府間海洋学
西部太平洋域 50 年間活動と日本学術振興会拠点大学事業による「沿岸海洋学」の過去、現在、
そして未来-後援
日 程:2010 年 10 月 26 日(火)～10 月 29 日(金)
主 催:東京大学大気海洋研究所
- 14) 第 36 回リモートセンシングシンポジウム協賛
日 程:2010 年 11 月 4 日(木)～5 日(金)
主 催:(社)計測自動制御学会
- 15) GPS/GNSS シンポジウム 2010 の協賛
日 程:2010 年 11 月 4 日(木)～6 日(土)
主 催:測位航法学会
- 16) 第 22 回研究成果発表会協賛
日 程:2010 年 11 月 25 日(木)～26 日(金)
主 催:海上保安庁海洋情報部
- 17) 国際シンポジウム「気候変化と変動におけるインド洋と太平洋の役割-ユネスコ IOC50 周年を記
念して-」後援
日 程:2010 年 12 月 2 日(木)～3 日(金)
主 催:シンポジウム運営委員会
- 18) 「鉄鋼スラグ海域利用に関するシンポジウム-鉄イオンによる海の森づくりと地球温暖化防止へ
の期待-」協賛
日 程:2010 年 12 月 6 日(月)
主 催:社団法人日本鉄鋼協会
- 19) 第 2 回国際北極研究シンポジウム後援
日 程:2010 年 12 月 7 日(火)～9 日(木)
主 催:第 2 回国際北極研究シンポジウム国際委員会
- 20) 第 24 回数値流体力シンポジウム協賛
日 程:2010 年 12 月 20 日(月)～22 日(水)
主 催:社団法人日本流体力学会
- 21) シンポジウム「海の先端技術で測る-海底地殻変動・津波-」協賛
日 程:2011 年 1 月 18 日(火)～19 日(水)
主 催:東大地震研究所
主 催:社団法人日本鉄鋼協会
- 22) 第 26 回北方圏国際シンポジウム協賛
日 程:2011 年 2 月 20 日(日)～2 月 25 日(金)
主 催:北方圏国際シンポジウム実行委員会
- 23) 第 22 回海洋工学シンポジウム協賛
日 程:2011 年 3 月 17 日(木)～18 日(金)
主 催:日本海洋工学会

2011年度事業計画

1. 「Journal of Oceanography」第67巻第2号～第68巻第1号、および「海の研究」第20巻第3号～第21巻第2号を刊行する。ニュースレターを4回刊行する。
2. 2011年度春季大会（東京大学大気海洋研究所会員の担当で、2011年3月22日～26日）を、東京大学柏キャンパスで開催する。（注）
3. 2011年度秋季大会（福岡地区会員の担当で、2011年9月26日～30日）を九州大学筑紫キャンパスで開催する。
4. 通常総会1回、評議員会2回、幹事会7回を開催する。
5. 2011年度日本海洋学会賞（1件）・岡田賞（2件）・宇田賞（1件）・日高論文賞（2件）および奨励論文賞（2件）、環境科学賞（1件）を授与する。
6. 2012年度日本海洋学会賞（1件）・岡田賞（2件以内）・宇田賞（2件以内）・日高論文賞（2件以内）・奨励論文賞（2件以内）および環境科学賞（1件以内）受賞候補者の選考を行う。
7. 学会賞・岡田賞・宇田賞受賞候補者選考委員会委員、論文賞受賞候補者選考委員会委員、環境科学賞候補者選考委員会委員の半数改選を行う。
8. 日本海洋学会青い海助成事業として、海洋環境問題にかかわる事業への助成を行なう。
9. 海洋未来技術研究会からの援助を受けて若手研究者の海外渡航費の援助を行う。
10. 学会創立70周年記念事業として、記念誌の刊行および記念シンポジウムを開催する。
11. その他

注) 事業計画にあった春季大会については、大会実行委員会により準備は順調に進められていたが、3.11に生じた東日本大震災に伴う状況の大きな変化を鑑み、口頭発表、ポスター発表ならびに大会に伴う諸行事は中止とした。ただし、各発表は講演要旨をもって本大会にて行われたものと扱うこととした。

監 査 報 告 書



日本海洋学会

会長 小 池 勲 夫 殿

日本海洋学会平成22年度（平成22年4月1日～平成23年3月31日）の収支計算書類を監査した結果、財産は安全且つ適正に保管され、収支決算は正確で誤りなく、会計・経理の処理は適正であったことを報告いたします。

平成23年3月3日

日本海洋学会

監 査 平 啓 介 監 査 寺 崎 誠 

日本海洋学会 2010 年度監査報告

2011 年 3 月 3 日 14 時から、学会事務局において寺崎・平監査により河宮幹事、事務局 2 名の出席で実施した。

収入は予算額より 775,521 円少ない 38,680,264 円であった。通常会員と学生会員の会費納入率が 93%にとどまったこと、終身会員の申込者がいなかったことによる。海洋未来技術研究会、日本海洋科学振興財団、海ロマン 21 からの寄付金があった。また、春秋大会実行委員会から合計 120 万円の寄付金があった。

支出は JO 電子化などがあり、基本金戻し入れを行い次期への繰り越しは約 200 万円減少した。「海の研究」に続いて「JO」も電子化され、学会誌の印刷・発送費用が軽減されるので今後の学会運営の見通しは明るい。

会計処理を監査し、財産目録に記載の普通預金、定期預金、信託預金の通帳により、適正に処理管理されていることを確認した。 (以上)

監査 寺崎 誠

監査 平 啓介

審議事案④ 会則の改正(刊行物の投稿規定に関する条項の見直し)

理由: 2011年よりJOの出版がSpringer-Japan社へ移行した事に伴い、特に投稿規定の技術的な部分に関しては、SJ社が扱う出版物全体を対象に時折変更される可能性が予想され、評議員会の承認プロセスを経ていくと、機敏な対応が難しいと判断されるため。ただし、投稿者や読者の利益に関わるような重要な改定については従来どおり評議員会の承認事項とし、その必要性の判断は幹事会が担うものとする。

現会則

第5章 刊行物

第35条 投稿規定は編集委員会で作成し評議員会の承認を得る。

改正案

第35条 投稿規定は編集委員会で作成し幹事会の承認を得る。ただし、幹事会が必要と認める場合は評議員会の承認を得るものとする。
